

## 1、2号機の廃止措置に関する計画等

1号機は、2017年6月に廃止措置計画の認可を受け、同年9月より、廃止措置作業を開始しています。現在、第1段階「解体工事準備期間」の作業を行っています。

2号機は、2018年5月に運転を終了し、廃止措置計画の認可を受けるための準備を進めています。

### [1号機の廃止措置計画の全体工程]

第1段階 解体工事準備期間	第2段階 原子炉領域周辺設備 解体撤去期間	第3段階 原子炉領域設備等 解体撤去期間	第4段階 建家等 解体撤去期間
約10年(～2026年度頃)	約15年(～2041年度頃)	約8年(～2049年度頃)	約7年(～2056年度頃)
<p>管理区域外設備の解体撤去 燃料の搬出</p>	<p>管理区域内設備(原子炉領域周辺)の解体撤去</p>	<p>原子炉領域設備の解体撤去</p>	<p>建家等の解体撤去</p>
燃料を搬出するとともに、主に2次系設備(ポンプ・タンク等)の解体撤去を開始	1次系設備(ポンプ・タンク等)の解体撤去を開始	1次系の主要設備である原子炉容器や蒸気発生器等の解体撤去を実施	原子炉格納容器、原子炉補助建家等の解体撤去を実施

※2号機の廃止措置計画については、1号機と同様に、約40年かけて実施する計画です。

## 3号機の定期検査の概要

今回の定期検査では、原子炉本体などの各種施設の検査や燃料取替に加え、「原子炉容器上部ふた取替工事」や「非常用ディーゼル発電機火山灰対策工事」等を実施しました。

### ■ 伊方発電所に対するご意見・ご要望 (平日9時～17時)

伊方発電所 広報課 …………… TEL:0894-39-1701

原子力本部 エネルギー広報グループ …………… TEL:089-946-9730

### ■ 四国電力ホームページ <http://www.yonden.co.jp/>

### お知らせ 「一般財団法人 南予医療振興財団」の設立

当社は、八西地区を中心とした南予地域の医師確保および医療充実等を図るため、このたび、「一般財団法人 南予医療振興財団」を設立しました。当財団は、愛媛大学医学部医学科生を対象に、来年度から奨学金貸与事業(原則6年間、最大1,080万円貸与)を開始いたします。

奨学金制度の詳細および応募方法等については、当財団にお問合せいただくか財団ホームページをご覧ください。

◆ 財団お問合せ先…TEL: 089-910-1340 ◆ 財団ホームページ…<https://www.nanyo-msp.jp>

2018.11作成

## 地域の皆さまへ

皆さまには、日頃より当社の事業活動にご理解賜り、心から御礼申し上げます。

このたび、伊方発電所3号機は、運転を再開いたしました。引き続き、安全確保を最優先に、発電所の運営に万全を期してまいります。

申し上げるまでもなく、伊方発電所の運営につきましては、地域の皆さまのご理解が何よりも重要と考えており、この訪問対話活動も昭和63年以来、30年以上にわたって実施させていただいております。

当社といたしましては、地域の皆さまから信頼され、ご安心いただけるよう、伊方発電所の安全・安定運転を継続するとともに、今後とも、情報公開の徹底と丁寧な理解活動に全力を尽くしてまいります。

四国電力株式会社 取締役社長

佐伯 勇人



四国電力株式会社

YONDEN

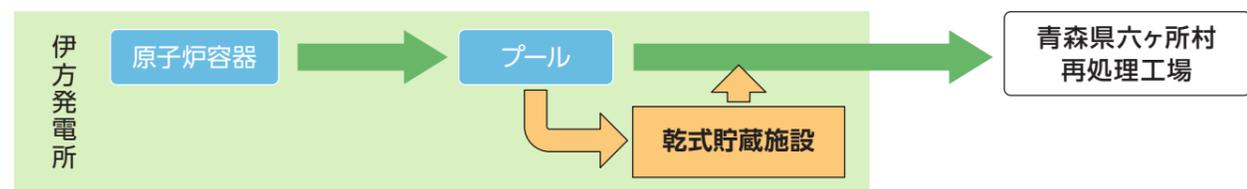
現在、伊方発電所の敷地内に設置するための計画を進めている「使用済燃料乾式貯蔵施設」の概要をはじめ、「1、2号機の廃止」に伴う取り組み、「3号機の定期検査」の概要について、ご説明いたします。

## 伊方発電所の乾式貯蔵施設について

伊方発電所で発生した使用済燃料は、発電所内にある使用済燃料ピットと呼ばれるプールで、青森県六ヶ所村の再処理工場に搬出するまでの間、一時的に貯蔵しています。

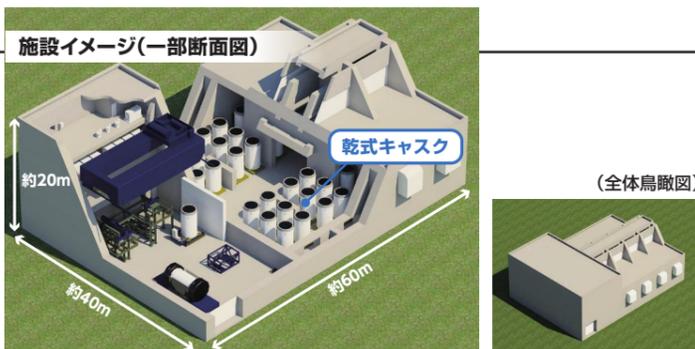
現在、そのプールとは別に、2023年度の運用開始を目指して、発電所敷地内に、新たに乾式貯蔵施設を設置するための準備を進めています。

### ■ 使用済燃料の搬出までの流れ



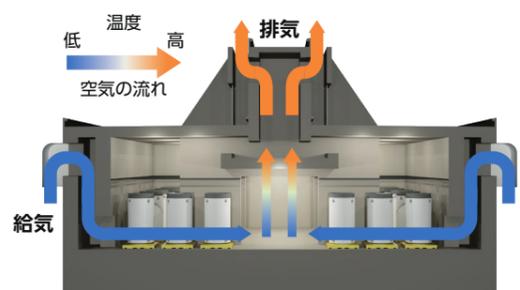
### ■ 乾式貯蔵施設の特徴、構造と安全性

乾式貯蔵施設は、使用済燃料を乾式キャスクと呼ばれる金属製の頑丈な容器に入れて、貯蔵する施設です。



### ○ 冷却の仕組み

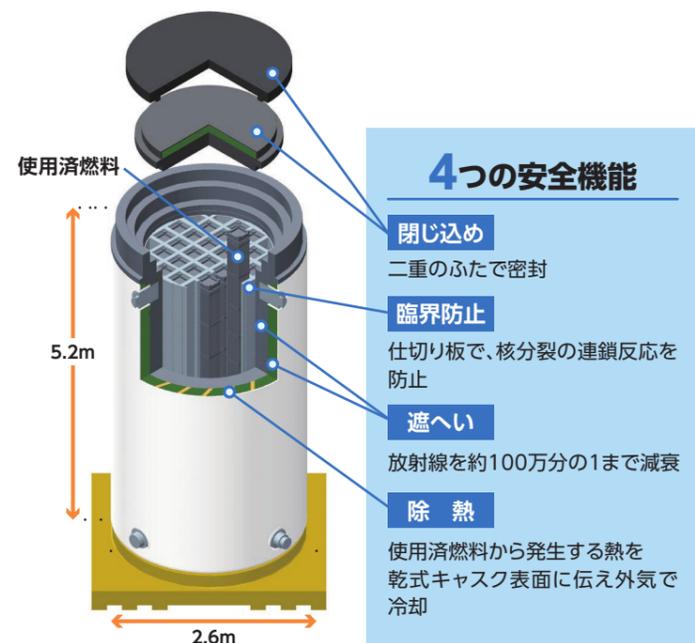
水や電気を使用せずに空気の自然対流(換気)で冷却しながら貯蔵するため、安全性に優れています。



#### 参考 福島第一原子力発電所の事例

東日本大震災時、福島第一原子力発電所のキャスク保管建屋に大量の海水、砂、ガレキ等が流れ込みましたが、保管していた9基の乾式キャスクは、いずれも安全機能に問題ないことが確認されています。

### ○ 乾式キャスクの構造と安全機能



## よくあるご質問

### Q1. 乾式貯蔵施設ができたなら、発電所に使用済燃料を置き続けるの？

▶ **伊方発電所に使用済燃料を置き続けることはありません。**

乾式貯蔵施設もプールと同様に、再処理工場に搬出するまでの間、一時的に貯蔵するための施設であり、伊方発電所に使用済燃料を貯蔵し続けることはありません。

### Q2. 使用済燃料をプールから乾式貯蔵施設に移しても安全なの？

▶ **十分安全に貯蔵することができます。**

伊方発電所で使い終わった燃料は、プールで15年以上にわたって貯蔵することで、使用直後に比べて十分に冷やされます。そのため、空気の自然対流で冷やす乾式貯蔵施設でも十分に安全に貯蔵することができ、人がすぐそばまで近づいても全く問題ありません。

### Q3. 使用済燃料をプールから乾式貯蔵施設に移しても、周りの放射線量は増えないの？

▶ **これまでと変わらず、発電所の周りの皆さまへの影響はありません。**

プールで15年以上貯蔵している間に使用済燃料から出る放射線量は、大幅に減ります。また、乾式キャスク本体や建屋の壁・天井などで放射線を遮へいしますし、施設は発電所敷地境界から十分離れた位置に設置します。そのため、発電所の境界付近の放射線量は、これまでと変わらず周りにお住まいの皆さまの生活には影響ありません。

#### 参考

発電所の敷地外で、乾式貯蔵施設から1年間に受ける放射線の量 **0.001** ミリシーベルト以下

#### 比べてみよう

- 日本人が1年間に自然界から受ける放射線の量 **2.1** ミリシーベルト
- 胸のエックス線集団検診1回あたりの放射線の量 **0.06** ミリシーベルト

### Q4. 乾式貯蔵施設に貯蔵する使用済燃料は、大きな地震が来ても大丈夫なの？

▶ **大規模な地震が来ても大丈夫です。**

使用済燃料は、乾式貯蔵施設の中で、頑丈な金属製のキャスクに収納し、安全に貯蔵します。そのため、仮に、伊方発電所で想定される最大の地震(基準地震動:650ガル)が発生しても、安全性に問題はありません。

